

西濃地区

36 大垣市奥の細道むすびの地記念館

(大垣市船町2-26-1、TEL 0584-84-8430)

芭蕉は、元禄2(1689)年3月に江戸を出発し、東北・北陸を巡り、8月に大垣の地で『奥の細道』の旅を終えた。「奥の細道むすびの地記念館」は、「芭蕉館」「先賢館」「観光・交流館」と大垣藩重臣・小原鉄心の別荘「無何有荘(むかゆうそう)大醒榭(たいせいしゃ)」から構成され、平成24(2012)年に開館した。「芭蕉館」は、俳諧紀行『奥の細道』をはじめ、芭蕉のひととなりや旅に生きた人生を、「先賢館」は、大垣市の著名な先人達を、「観光・交流館」は、大垣や西美濃の観光情報や全国の芭蕉関連施設を紹介している。

入館料：一般300円 18歳未満無料

休館日：年末年始



37 大垣市郷土館

(大垣市丸の内2-4、TEL 0584-75-1231)

戸田公入城350年を記念して、昭和60(1985)年に開館した。大垣藩主戸田家の歴代藩主顕彰が中心で、歴代藩主の肖像、武具、調度品の他、江戸時代から昭和にかけての大垣市ゆかりの画家、書道家、書人の絵画、掛け軸などの美術品を展示する。郷土館の敷地は大垣藩最後の家老、戸田鋭之助の屋敷跡で、正門と塀(附船板塀)は当時のものである。

入館料：大人200円(大垣城と共通券)、18歳未満無料

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始



38 大垣城

(大垣市郭町2-52、TEL 0584-74-7875)

大垣城は美濃守護・土岐一族の宮川氏により、天文4(1535)年に創建されたと伝えられている。関ヶ原の戦いでは、西軍・石田三成の本拠地となり、その後、戸田氏が十万石の城主となり明治まで続いた。昭和11(1936)年に国宝に指定されたが、昭和20年の空襲で焼失した。昭和34年に4層4階の天守を再建し、城下町大垣のシンボルとなっている。城内では、関ヶ原合戦や大垣城に関する展示等を見ることができる。

入館料：大人200円(大垣市郷土館と共通券)、18歳未満無料

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始



39 大垣市輪中館・輪中生活館

(大垣市入方2-1611-1、TEL 0584-89-9292)

輪中館は、この地域に見られる輪中について、江戸時代から現在までの歴史や景観を、資料や模型などでわかりやすく解説・展示した施設である。

輪中生活館は、市指定重要有形民俗文化財の旧名和邸を整備し公開しており、母屋のほか住居式水屋や土蔵式水屋など、輪中地帯の典型的な中農民家の様式を備えている。輪中館を補完する施設として、輪中に暮らす人々のすまいや生活を紹介します。

入館料：無料

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始 ※輪中生活館は土日祝のみ開館(年末年始は除く)



40 大垣市金生山化石館

(大垣市赤坂町4527-19、TEL 0584-71-0950)

金生山は、2億5千万年前（古生代ペルム紀）の赤道直下のサンゴ礁に生息した、フズリナ、サンゴ、ウミユリ、巻貝、二枚貝などの化石が豊富に産出し、「日本の古生物学発祥の地」「古生物のメッカ」として知られている。中でもシカマイアという二枚貝やウミユリは、世界一の大きさを誇っている。金生山化石館は、金生山産の化石や鉱物を約700点展示するとともに、わくわく体験活動や講座などを実施して、金生山の化石や地質を紹介している。

入館料：大人100円、18歳未満無料

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日、年末年始



41 大垣市歴史民俗資料館

(大垣市青野町1180-1、TEL 0584-91-5447)

国史跡「美濃国分寺跡」に隣接して建てられ、寺跡から発掘された出土品や、発掘により判明した寺跡の全貌を公開するとともに、この地方の古墳からの出土品、住民の生活文化の特色を示す民俗資料をあわせて公開している。

入館料：大人100円、18歳未満無料

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日、年末年始



42 梁川星巖記念館

(大垣市曾根町1-772-1華溪寺境内、TEL 0584-81-7535)

幕末の漢詩人であり勤王の志士であった梁川星巖の記念館である。星巖は頼山陽や佐久間象山らと深い親交があり、梅田雲浜や吉田松陰、久坂玄瑞ら多くの志士が星巖邸を訪ねるなど、勤王の志士たちに大きな影響を与えた。館内には星巖・紅蘭の肖像画や星巖の墨蹟・遺品、華溪寺、曾根城の資料などがわかりやすく収集・展示されている。

入館料：無料

休館日：なし



43 大垣市守屋多々志美術館

(大垣市郭町 2-12 、TEL 0584-81-0801)

大垣市出身で文化勲章受賞の日本画家守屋多々志画伯の作品を広く紹介する美術館として、平成13(2001)年に開館した。3,300点を超える作品や資料を年5回の展覧会ごとに入れ替え、その豊かで魅力あふれる画業を紹介している。

入館料：大人 300 円、高校生以下無料

休館日：火曜日（祝日の場合その翌日）、祝日の翌日、年末年始、展示入替期間（不定期）



44 OKBギャラリーおおがき

(大垣市高屋町1-59、TEL 0120-371543)

OKB大垣共立銀行が地域の芸術文化の発展を願って開設した施設で、平成23(2011)年に、OKB大垣駅前支店の西隣にオープンした。所蔵作品を活用した展示のほか、学校関係や地域の芸術文化団体と連携した企画展など、様々な展覧会を開催している。

入館料：無料

休館日：年末年始、展示入替期間を除き無休



45 美濃民俗館 宝光院宝物殿十三間堂

(大垣市野口1-39-1、TEL 0584-91-8326)

宝光院は、伝教大師の創建と伝えられ、江戸時代には幕府から「御朱印地」として特別な保護を受けていた。毎年節分には「節分会はだか祭」が開催され、熱気あふれる祭の舞台になる。宝物殿十三間堂には、寺宝並びに美濃地方の民俗資料が展示されている。

入館料：無料

休館日：無休



46 赤坂港会館

(大垣市赤坂町2939、問合せ先：大垣市教育委員会
文化振興課 TEL 0584-47-8067)

20世紀初頭までは河川交通が重要で、赤坂湊も杭瀬川の川湊として栄えた。赤坂湊跡に建つ洋風建築の赤坂港会館は、明治8(1875)年に中山道と谷汲街道の分岐点に建てられた警察屯所で、現在の建物は復元されたものである。内部は資料館として、石灰や大理石産業で栄えた当時の赤坂の様子を紹介している。

入館料：無料

休館日：土日祝のみ開館(年末年始は除く)



47 江東民俗資料館

(大垣市内原3-135、
問合せ先 江東民俗資料保存会
担当 桑山 TEL 0584-89-2903)

大垣市立江東(えひがし)小学校の敷地内にあり、輪中の暮らしと農業に関する民俗資料を子ども達の学習に役立てるとともに、後世に伝えるために、収集展示している。

入館料：無料

休館日：冬季休館(1~3月)、
第2、第4土曜日以外の日



48 墨俣一夜城(大垣市墨俣歴史資料館)

(大垣市墨俣町1742-1、TEL 0584-62-3322)

永禄9(1566)年、木下藤吉郎(のちの豊臣秀吉)が一夜にして築いたと伝えられる墨俣一夜城。その城跡に、当時の砦のような城ではなく、城郭天守の体裁を整えた城が、平成3(1991)年に完成し、歴史資料館として利用されている。館内では、昭和52(1977)年に愛知県江南市の旧家で発見された前野家文書に基づいた墨俣築城と秀吉の歩んだ道を中心とした展示を行い、太閤・秀吉について学習できる場所となっている。

入館料：大人200円、18歳未満無料

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始



49 上石津郷土資料館

(大垣市上石津町宮237-1、TEL 0584-45-3639)

上石津地域には全域から石器が発見できるほか、古墳や古寺跡も見ることができる。特に多良地区には、江戸時代を通じて木曾三川の水奉行を勤めた旗本西高木家の陣屋跡(国史跡)がある。資料館は、西高木家の陣屋跡に平成5(1993)年に開館した。城郭を思わせる石垣や陣屋跡の長屋門も資料館の景観に取り込み、6世紀の「二又古墳群出土遺物」や、上石津地域全域から発見された石器の他、民俗資料、貴重な動植物の剥製や標本も展示されている。

入館料：大人100円、18歳未満無料

休館日：火曜日(祝日の場合翌日)、祝日の翌日、年末年始



50 時山文化伝承館

(大垣市上石津町時山864-1、TEL 0584-45-3755)

上石津を流れる牧田川の源流部に位置しており、この地域独特の時山炭の炭焼きの道具や、炭に関連した生活用品(刺し子)など様々なものを展示している。

入館料：大人110円、子供無料

休館日：水曜日・土曜日以外、冬季休館(1~3月)



51 日本昭和音楽村・江口夜詩記念館

(大垣市上石津町下山2011、TEL 0584-45-3344)

音楽村は水嶺湖畔にある複合文化施設で、ホール、スタジオ、宿泊施設、レストラン等を備えている。博物館としては、上石津町出身の作曲家江口夜詩を記念した江口夜詩記念館とカフェレストラン内にFN音楽館がある。前者は、ホルンをイメージしたデザインで作られ、音楽専用ホールと江口夜詩資料展示室がある。後者は、1960~70年代にかけて若者たちに支持されたフォークやニューミュージックのシングル盤を集めている。

入館料：無料

休館日：水曜日(祝日を除く)、祝日の振替日、年末年始 ※7月中旬から9月末まで無休



52 海津市歴史民俗資料館

(海津市海津町萱野205-1、TEL 0584-53-3232)

海津市の歴史や文化を紹介する資料館で、「貝塚と古墳」「輪中と低地の農業」「高須藩」を主要テーマにしている。1階には「海津の縄文時代」と「海津の古墳時代」のコーナーがあり、2階では輪中や治水の歴史、生活文化について実物や模型で学ぶことができる。3階には高須藩松平氏の御館の一部が復元展示されており、能舞台もある。館外には輪中の景観であった「堀田」や「田舟」が復元され、発掘された「金廻四間門樋」の一部が保存されている。

入館料：大人310円、子供150円

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始



53 岐阜県さぼろ遊学館

(海津市南濃町奥条、TEL 0584-55-1110)

デレーケが、木曾三川分流工事に際して海津の羽根谷に作った土砂流出防止のための巨石積堰堤（国登録有形文化財）があり、その傍に建てられている。土砂災害（土石流、地すべり、がけ崩れなど）に関する知識を深め適切な避難の方法について学べる施設として、平成29(2017)年にリニューアルオープンした。開館中は、無料で展示物を見ることができ、事前に予約すれば、土砂災害や防災の専門家による研修や説明を受けることができる。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合はその翌日）、
年末年始（12/29～1/3）



54 氷砂糖資料館（中日本氷糖株式会社）

(海津市南濃町津屋2812-100、TEL 052-661-0113)

「甘い宝石」氷砂糖の今と昔を見ることができる。氷砂糖に関する資料を中心に、砂糖の歴史や製造についての解説がされている。サトウキビ・サトウダイコンなどの本物を展示している。

入館料：大人300円、小中高生100円（要予約）

休館日：土、日曜日、祝祭日、年末年始、お盆



55 養老町郷土資料館（養老郡養老町石畑483-2

、問合せ先 中央公民館 TEL 0584-32-1281)

養老町民会館の中にあり、郷土の歴史に対する町民の認識を高めるために設置された施設である。養老町の自然、歴史、文化などについて展示している。

入館料：無料（見学するには中央公民館へ要連絡）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）



56 親孝行のふるさと会館

(養老郡養老町養老公園内、TEL 0584-34-2874)

養老公園内の滝に向かう途中にある観光案内所で、養老の滝の水が酒になったと伝わる孝子物語を模型や映像で紹介している。ただし、冬季は閉館している

入館料：無料

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)、
冬季休館(12~3月)



57 ひょうたん会館

(養老郡養老町鷺巣1646-9、TEL 0584-32-2500)

ひょうたんをテーマにした博物館で、館内には古いひょうたん、珍しいひょうたんなど多数展示してあるほか、ひょうたんの作り方を分かりやすく説明するジオラマもある。

入館料：無料

休館日：不定休



58 豆馬亭資料館

(養老郡養老町養老公園1281、TEL 0584-32-1351)

豆馬亭は、明治13(1880)年に開設された養老公園と同時に創業した老舗旅館である。多くの文人墨客や有名人が訪れた。彼らの残した資料や写真、郷土の歴史資料を展示する施設として令和元(1989)年に開館した。

入館料：無料(見学には担当村上まで要連絡)

休館日：月曜日、冬季休館(12~3月)



59 田代神社資料館 (養老郡養老町高田259-1、 宮司宅 TEL 0584-32-0654)

神社が所有する天保12(1841)年奉納の算額をはじめとする宝物や神社・地域の歴史を伝える古文書や絵、写真等が展示されている。

入館料：無料(入館可能人数 10名)

休館日：見学には宮司宅へ予約が必要



60 養老町山口会館

(養老郡養老町高田18-1、問合せ先：養老町教育委員会生涯学習課 TEL 0584-32-5086)

養老町出身の作曲家山口俊郎は、三橋美智也の初ヒット曲「おんな船頭唄」をはじめ多くの歌謡曲を作曲した。その生い立ちとその功績をゆかりの品々とともに紹介することを目的として平成16(2004)年に場所を移動してリニューアルオープンした。

入館料：無料

休館日：日曜日以外



61 タルイピアセンター歴史民俗資料館

(不破郡垂井町2443-1、TEL 0584-23-3746)

垂井町の文化複合施設「タルイピアセンター」の中にあり、垂井の自然や歴史、文化について、実物資料のほか映像や模型で「美濃国府」「竹中半兵衛」「垂井宿」などを紹介している。企画展示室では、垂井の歴史や文化に関わる企画展を行っている。

入館料：無料

休館日：月曜日、祝祭日の翌日、毎月最終木曜日、年末年始(12/28~1/4)



62 菁莪記念館

(不破郡垂井町岩手608-2、問合せ先：タルイピアセンター TEL 0584-23-3746)

明治時代の小学校「菁莪学校」を模した資料館。館内では、竹中氏ゆかりの品をはじめ、岩手地区に関わる資料を展示している。竹中氏の歴史を紹介するパネルが設置されており、菩提山城や竹中氏陣屋の復元模型などを見ることができる。

入館料：無料

休館日：火曜日、年末年始



63 関ヶ原町歴史民俗学習館

(不破郡関ヶ原町関ヶ原894-28、TEL 0584-43-2665)

1階の多目的室は、研修や会議、教育旅行の休憩場所等に利用することができる(事前予約が必要)。また、関ヶ原合戦に関する書籍を集めたアーカイブコーナーもあり、自由に関覧できる。2階は「歴史展示室」と「体験展示室」があり、縄文時代から近現代までの関ヶ原町の歴史や民俗に関わる展示がされている。

入館料：無料

休館日：月曜日(祝祭日の場合は翌日)、年末年始



64 不破関資料館

(不破郡関ヶ原町松尾21-1、TEL 0584-43-2611)

不破関は672年の壬申の乱後に設置された関所で、畿内を守るために特に重要な三関のひとつとされた。789年に廃止された不破関の発掘調査は、昭和49(1974)年から実施され、不破関の構造が明らかになるとともに、須恵器や和同開珎、軒丸瓦・軒平瓦、灰釉陶器などが出土した。広さ12万㎡にも及んだ関域の一角に建つ不破関資料館には、それら貴重な資料が展示されており、関全体を復元した模型もある。現地には当時の土塁なども残っており、ここで学習してから関連史跡を巡ると、より深く不破関を知ることができる。

入館料：大人110円、中学生以下無料

休館日：月曜日(祝祭日の場合は翌日)、年末年始



65 岐阜関ヶ原古戦場記念館

(不破郡関ヶ原町関ヶ原894-55、TEL 0584-47-6070)

岐阜関ヶ原古戦場記念館は関ヶ原の戦いの歴史を伝えること及び関ヶ原古戦場の魅力を発信することにより、関ヶ原古戦場を核とした広域観光の推進を図り、地域の発展に寄与することを目指している。1階では床面スクリーンのグラウンドビジョンと大迫力のシアターで関ヶ原の戦いについて知ることができ、2階は合戦に参加した武将の資料や古文書が並ぶ常設展示室のほか、鉄砲、やりの模型に触れられる体験コーナーがある。5階には古戦場を一望できる全方位ガラス張りの展望室がある。

入館料：大人500円、高大学生300円、中学生以下無料
休館日：月曜日(祝祭日の場合は翌平日)、年末年始



66 妙応寺宝物殿

(不破郡関ヶ原町今須2519-1、TEL 0584-43-5141)

妙応寺は延文5(1360)年に、今須領主であった長江重景が、亡き母・妙応のために、道元の弟子であった峨山禅師を開山として建立した曹洞宗総持寺の末寺である。敷地内にある宝物館には、関ヶ原合戦に関する古文書等が展示されている。

入館料：無料

休館日：無休(事前予約が必要)



67 エコミュージアム関ヶ原

(不破郡関ヶ原町玉 1565-3、TEL 0584-43-5724)

揖斐関ヶ原養老国定公園や東海自然歩道及び沿線の利用者や自然に興味のある人たちが、自然の営みや地域の文化、景観などに関する理解を深めることができるよう設立された自然博物館である。

入館料：無料

休館日：月曜日(休日の場合翌日)、年末年始



68 神戸町日比野五鳳記念美術館

(安八郡神戸町神戸1220-1、
中央公民館 TEL 0584-27-7320)

神戸町中沢出身で書家の日比野五鳳は、近代における仮名書壇の最高峰といわれ、文化功労者に選ばれている。同館には、その代表作品役300点が所蔵され、春と秋の2回展示されている。

入館料：大人(大学生以上)220円

開館日：春季展(4月下旬～5月下旬)、
秋季展(11月上旬～11月下旬)のみ開館

休館日：上記開館日以外は休館

開館中の火曜日(祝祭日の場合翌日)



69 輪之内町歴史民俗資料館

(安八郡輪之内町中郷新田 1495、TEL 0584-69-4500)

図書館と併設されており、資料館では輪之内町の歴史、水の開拓史等の展示の他、過去の災害時の水位が電光表示される「長良川・揖斐川の水位」があり、水と戦ってきた輪中の歴史がわかる施設である。

入館料：大人 110円、子供 50円(電話予約が必要)

休館日：月曜日、祝日の翌日、毎月の最終金曜日、
年末年始



70 片野記念館

(安八郡輪之内町四郷1825、TEL 0584-69-3570)

昭和46(1971)年に、輪中文化の研究拠点として整備された日本でも数少ない私設の民俗博物館である。片野家は、輪之内町にある福東輪中の名家で、片野万右衛門は明治の木曾三川改修工事推進のために治水共同社を創設して初代取締役役に就任した治水事業家であった。

この片野家に伝わる貴重な歴史資料をはじめ、約6千点にもおよぶ近代庶民資料、岐阜県中世文書影写本、輪中民俗文化財および郷土史研究の参考書籍文献などや、農具、漁具、養蚕具、生活用品などが保管・展示されている。

入館料：大人100円、子供50円(電話予約が必要)

休館日：年末年始



71 ハートピア安八歴史民俗資料館

(安八郡安八町氷取30、TEL 0584-63-1515)

生涯学習センター「ハートピア安八」内に設置された歴史資料館。安八町に関する民俗資料を中心に展示している。幕末から明治にかけて活躍した絵師蓑虫山人の出身地で、中庭には蓑虫山人にちなんだ庭園がある。

入館料：無料

休館日：月曜日(祝祭日の場合は翌日)



72 揖斐川歴史民俗資料館

(揖斐郡揖斐川町上南方901-5、TEL 0585-22-5373)

揖斐川の流が育んだ歴史と文化に関する常設展示の他、揖斐川町に関する美術品や歴史資料などを集めた企画展や特別展を随時開催している。舟運や揖斐祭りに関する展示が充実している。

入館料：大人110円、子供50円

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始



73 藤橋歴史民俗資料館

(揖斐郡揖斐川町鶴見、問い合わせ先藤橋城)

TEL 0585-52-2611、(12~3月 TEL 0585-52-2111))

緑に囲まれた鶴見地区に、移築・復元されたかやぶき民家5棟がある資料館で、250年以上前に建てられた家屋もある。各棟ごとに展示テーマがあり、実際に使われていた民具や生活用具が展示されている。

入館料：大人550円、小中学生270円、藤橋城と共通

休館日：月・火曜日（祝日の場合、その日を除く週初めの2日間）、冬季休館（12~3月）



74 藤橋城・西美濃プラネタリウム

(揖斐郡揖斐川町鶴見332-1、TEL 0585-52-2611)

(12~3月 TEL 0585-52-2111)

「お城の中にあるプラネタリウム」として有名な町営の施設で、1階がプラネタリウム、2階が星の展示室、3階が旧藤橋村の歴史と民俗の展示、4階が展望室となっている。

入館料：大人550円、小中学生270円、

藤橋歴史民俗資料館と共通

休館日：月・火曜日（祝日の場合、その日を除く週初めの2日間）、冬季休館（12~3月）



75 徳山会館

(揖斐郡揖斐川町開田280-1、TEL 0585-52-0033)

徳山湖畔にあり、旧徳山村民がふるさとを訪ねたときに集える施設として建てられた。館内には徳山ダムと旧徳山村を紹介する展示コーナーがある。また、増山たづ子氏撮影の写真も随時展示されている。

入館料：無料

休館日：月曜日、冬季休館（12~3月）



76 徳山民俗資料収蔵庫

(揖斐郡揖斐川町東横山183-1、

問い合わせ先 TEL 0585-22-5373)

徳山ダム建設のため全村離村した旧徳山村に伝わった「徳山の山村生産用具」(国指定重要有形民俗文化財)を収蔵展示する施設である。収蔵数は5,890点で、山村生活用具としては国内最大である。「徳山の山村生産用具」を良好な状態で保管、展示する目的で、平成15(2003)年に道の駅「星のふる里ふじはし」に隣接して開館した。

入館料：大人330円、子供160円

休館日：火曜日、年末年始



77 春日森の文化博物館

(揖斐川町春日美東1802-183、TEL 0585-58-3111)

古くから森に守られながら独自の文化や産業を育んできた春日地域の歴史を伝える施設である。森とともに暮らす人々と自然をさまざまな視点から紹介している。薬草の種類、道具などは「森の展示館」で観ることができる。

入館料：大人220円、子供110円

休館日：水曜日(祝日の場合は翌日)

冬季休館(12/24~3/20)



78 谷汲昆虫館

(揖斐郡揖斐川町谷汲徳積1412-1、TEL 0585-56-3833)

旧名鉄谷汲駅に隣接しており、1階は売店で2階が昆虫館になっている。天然記念物のギフチョウやヒメハルゼミの生態をVTR映像、コンピュータで紹介し、世界各地の昆虫の標本を展示している。隣接する旧谷汲駅構内には「赤い電車」の車両が保存されており、自由に見学できる。

入館料：大人200円、子供100円

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始



79 横蔵寺 瑠璃殿・舍利堂

(揖斐郡揖斐川町谷汲神原1160、TEL 0585-55-2811)

「美濃の正倉院」とも呼ばれる両界山横蔵寺は、平安時代から鎌倉時代の仏像等、多くの文化財を有する天台宗の古刹である。瑠璃殿には寺宝や22体の仏像を収蔵している。その隣には妙心上人の舍利仏(ミイラ)を祀る舍利堂がある。

入館料：大人 500 円、小中学生 200 円、幼児 100 円

(瑠璃殿、舍利堂共通)

休館日：冬季休館(12~3月)



80 池田町ふるさと史料室

(揖斐郡池田町六之井1455-1、問合せ先教育委員会TEL 0585-45-7110)

池田町は、願成寺古墳群など県内有数の古墳密集地として有名で、中世には土岐氏、稲葉氏、国枝氏などが城を築いた。史料室は中央公民館2階にあり、発掘調査などで出土した遺跡の資料を中心に、町の成り立ちを紹介している。

入館料：無料

休館日：月曜日、第3日曜日、年末年始



コラム②

岐阜県が誇る世界的な遺産

《ユネスコ世界文化遺産》

◎白川郷合掌造り集落 [平成7(1995)年登録]

急勾配の茅葺屋根をもつ合掌造りは、この地域の自然環境及び人々の生活・生業（特に養蚕）に合わせて発展してきた特徴的な農家の形式の一つで、極めて合理的な構造を備えている。

《ユネスコ無形文化遺産》

◎和紙 日本の手漉和紙技術 [平成26(2014)年登録] 他2件

○本美濃紙

美濃市の蔵生地区に伝えられた楮和紙の製作技術である。原料を手作業で処理し、不純物を取り除き、楮の繊維のみを用い、良質な製作用具を使用し、我が国特有の「流し漉き」で漉き、天日で乾燥する。「流し漉き」のときに、紙漉き用具の「縦ゆり」に加えて「横ゆり」することで、丈夫で美しい和紙が漉き上がる。

◎山・鉾・屋台行事 [平成28(2016)年登録] 他30件

○高山祭の屋台行事

高山祭は、春の山王祭と秋の八幡祭の総称で、春は12台、秋は11台の「動く陽明門」と称される豪華絢爛な祭り屋台が、高山の古き町並の中を巡行する。

○古川祭の起し太鼓・屋台行事

古川祭は、起し太鼓の「動」と屋台巡行の「静」の魅力が共存する気多若宮神社の祭礼である。

○大垣祭の軸行事

大垣祭は、城下町大垣の総氏神大垣八幡神社の祭礼で、藩主から下賜された軸(だし)と町衆の軸が併存しており、その軸行事は東西の祭礼文化の伝播や変遷を知る上で重要であると評価されている。

《ICID世界かんがい施設遺産》

◎曾代用水 [平成27(2015)年登録]

江戸時代初期、三人の民間人が私財を投じて、長良川の曾代村から取水し、現在の美濃市から関市の農地約1,000haを潤すために幹線の長さ約17kmの農業用水路を建設した。

《FAO世界農業遺産》

◎清流長良川の鮎 [平成27(2015)年認定]

長良川流域の人々の生活、水環境、漁業資源が密接に関わる里川(さとかわ)全体のシステムを「長良川システム」として捉えているのが特徴であり、長良川の清流と鮎は、流域の経済や歴史、食・文化を深く結びつけている。